

幼年教育科目：環境の指導法

担当教員：隅田学

登録学生数：31名

幼児期からのSTEAM (Science, Technology, Engineering, Art(s), and Mathematics) 保育実践

理科教育・隅田学

授業の目的

本授業の目的は、幼児は身近な環境や事象にどのようにかかわっていくのか、そのかわりを通してどのように発達していくのか、という点を中心に、具体的な実践事例に基づきながら、領域「環境」のねらい、内容、留意事項等について考えることである。

本授業の到達目標は、以下の通りである。

- 1) 幼稚園教育要領における「環境」の狙い及び主な内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 身近な環境に対する幼児の深い学びを実現する内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 環境に関わる子どもの学びを促進する情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
- 4) 家庭や地域社会との協働による子どもの学び支援、小学校と教科等とのつながりを理解している。
- 5) 国内外の環境に関わる保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

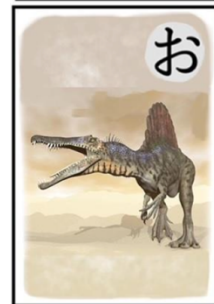
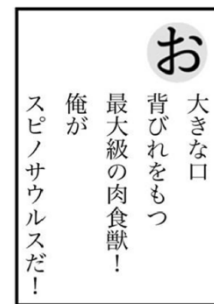
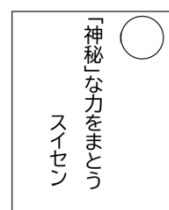
本年度の実施と工夫

STE(A)M (science, technology, engineering, art(s), and mathematics) 教育は世界的なトレンドとなりつつある。幼児期特有の自発的で統合的な遊びは、STEAM 教育と親和性が高いと思われるが、幼児期の教育研究や実践事例はまだ限られている。

本年度は、環境の指導法の授業において、自然・環境をテーマとした「カルタ」作り・遊びを教材開発と活用法の学習として取り入れたので報告する。カルタの絵札や読み札を作る中で、自然・環境に関する科学的理解が深まるとともに、創造性や表現力といった芸術的な側面が含まれ、取ったカードの枚数を数えたりすることで数も関わる、統合的な教育であり、小学校や教科等とのつながりの理解も含まれる。

受講生が作成したカルタ

受講生は、グループに別れ、それぞれ「花」「恐竜」「野菜」「星座」をテーマとしたカルタをオリジナルに作成した。各テーマは、グループで話し合ってから決定した。読札についても自分たちでオリジナルに作成し、個性溢れるユニークなカルタが完成した。



実践後の学生の反応

実践後、本授業におけるカルタづくりについてアンケートを行ったところ、以下のような回答が得られた（一部抜粋）。

「自分たちのグループのカルタの特徴、工夫点」

・花の名前だけでなく花言葉も入れたことによって文の意味も理解しながらカルタを楽しめることにより花に関する知識や興味が高まると考える。

「今回のカルタ作りを通して、自分が学んだこと、保育について考えたこと」

・カルタ作りをする中で、そのテーマについての知識が増えたり、感性が高まったりすると思った。また、他のグループが作成したカルタで遊ぶ際にも、新しい発見や学びがあると考えられる。

・教師は子どもに直接的に覚えさせるのではなく、児童から覚えようと思えるような工夫をできるようにレパートリーを増やしたいと思いました。